

日本人フランス語学習者の 自由会話における不定代名詞onの分析

2018年11月5日

国際ワークショップ「言語コーパスと学習者言語をめぐって」

東京外国語大学 216教室

東京外国語大学博士後期課程 伊藤玲子

東京外国語大学博士前期課程 清宮貴雅

目次

1. 本研究の目的
 2. 方法
 - 2.1. onの用法
 - 2.2. コーパス
 - 2.3. インフォーマント特性
 3. 分析
 4. 結論にかえて
 5. 今後の課題
- 謝辞
- 参考文献

1. 本研究の目的

日本語を母語とするフランス語学習者の自由会話において、不定代名詞onをどの用法で用いているのかを、学習者特性(フランス語学習歴、フランス語圏滞在期間)から分析する。

2. 方法

2.1. onの用法

Fløttum et al. (2007: 24-30) を基にonの用法の分類を構成

表1. 本研究におけるonの用法の分類

不定指示		定指示
総称的用法	特定の用法	
tous les hommes, chacun	quelqu'un	1人称複数

2.1. onの用法

定指示

(1) On vient souvent ici.

「(私たちは)ここにはよく来ます。」

不定指示

総称的用法

(2) Au Québec, on parle français.

「ケベックでは、フランス語が話されます。」

＝「ケベックでは、人々はフランス語を話します。」

特定の用法

(3) On frappe à la porte.

「(誰かが)扉をたたいています。」

(東京外国語大学フランス語モジュール)

2.2. コーパス

2015年度「現代フランス語中間音韻論 (IPCF)」の枠組みで調査

- ◆ 録音実施時期 2016年1月
- ◆ インフォーマント 日本人フランス語学習者7名
同じ大学で教育を受けた中上級フランス語学習者(CEFR B2~C1相当)
- ◆ 2名ペアの自由会話タスク(10~13分間) × 14回
- ◆ 規模 約35,000語(相槌、メタデータを含む)
- ◆ 会話の内容
 - 読んだ本について
 - 映画について
 - 旅行、夏休みについて
 - 子供の頃の思い出について
 - 時事問題について
 - ジムや趣味についてなど

2.3. 学習者特性

表2. フランス語圏滞在期間とフランス語学習期間

学習者	フランス語圏滞在期間 (月)	フランス語学習期間 (年)
J1	1	5
J2	1	5
J3	3	4
J4	9	4
J5	12	16
J6	82	8
J7	98	11

2016年2月時点

3. 分析

発話された語彙数とonの出現数

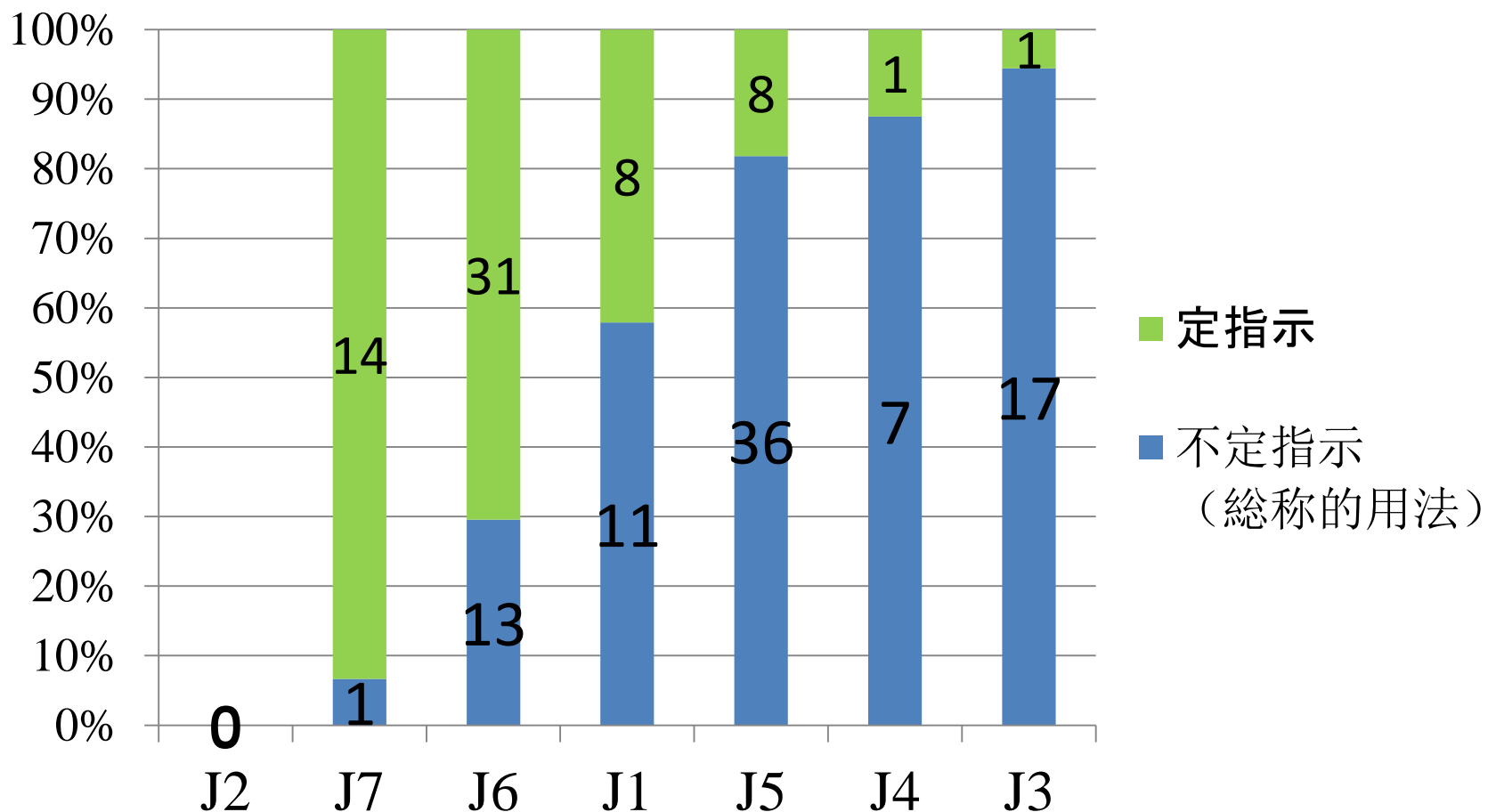
表3. 発話語彙数とonの出現数

学習者	onの出現		発話 語彙数
	N	%	
J2	0	0	1143
J4	8	0.44	1766
J7	15	0.64	2347
J1	19	0.66	2827
J3	18	0.90	1914
J6	44	1.15	3753
J5	44	1.17	3705

(%は小数点第三以下四捨五入)

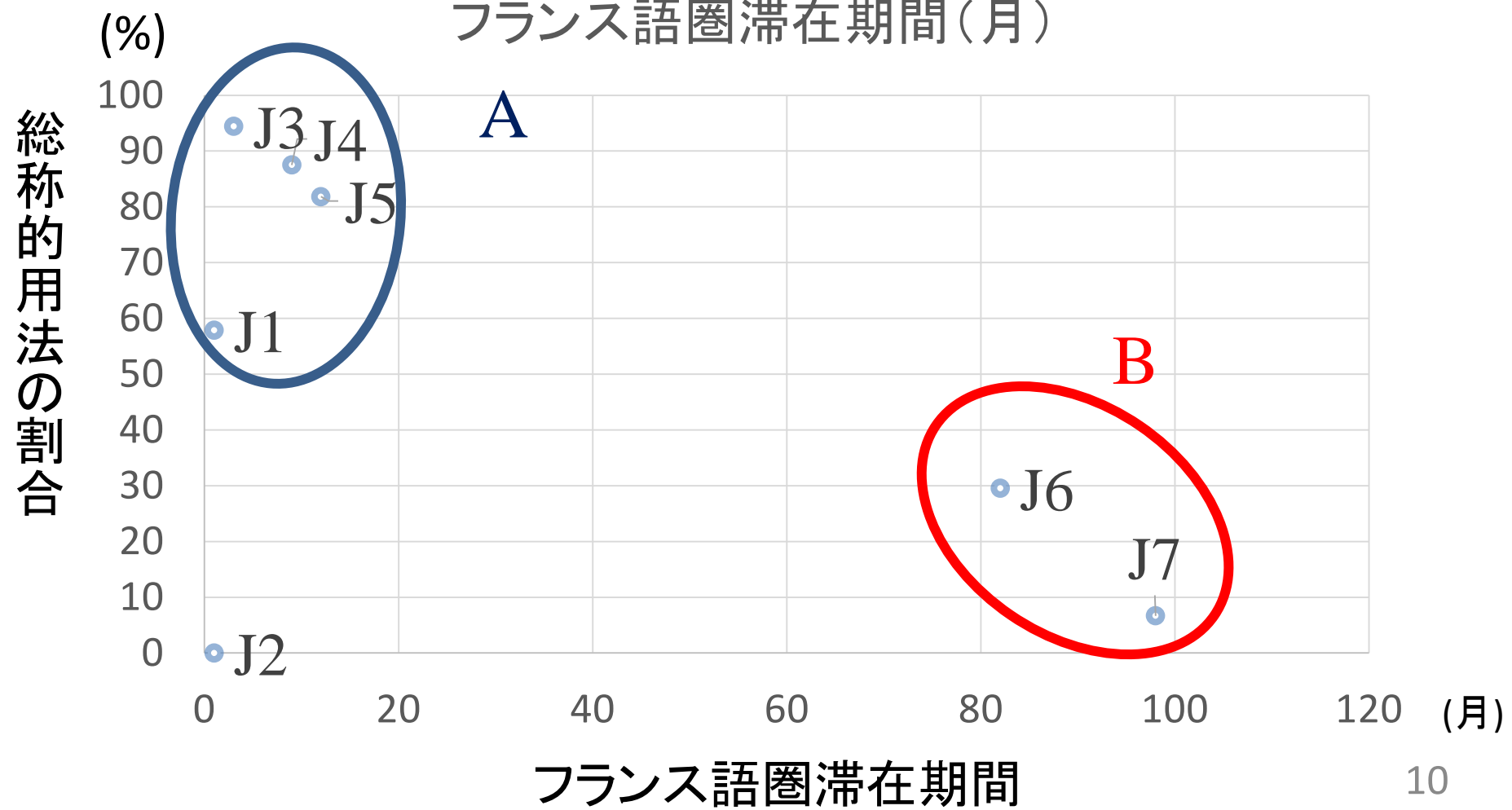
発話されたonの用法

グラフ1. 発話されたonの用法



onの用法とフランス語圏滞在期間

グラフ2. 不定指示(総称的用法)の割合と
フランス語圏滞在期間(月)



onの用法とフランス語圏滞在期間

◆ グループA : J1, J3, J4, J5

- 総称的用法の使用割合が高く、定指示の使用頻度が低い。
- フランス語圏滞在期間 1年以内
- J1 不定指示(58%)、定指示(42%)。

◆ グループB : J6, J7

- 総称的用法の使用割合が低く、定指示の使用頻度が高い。
- 滞在期間 6年以上～9年未満

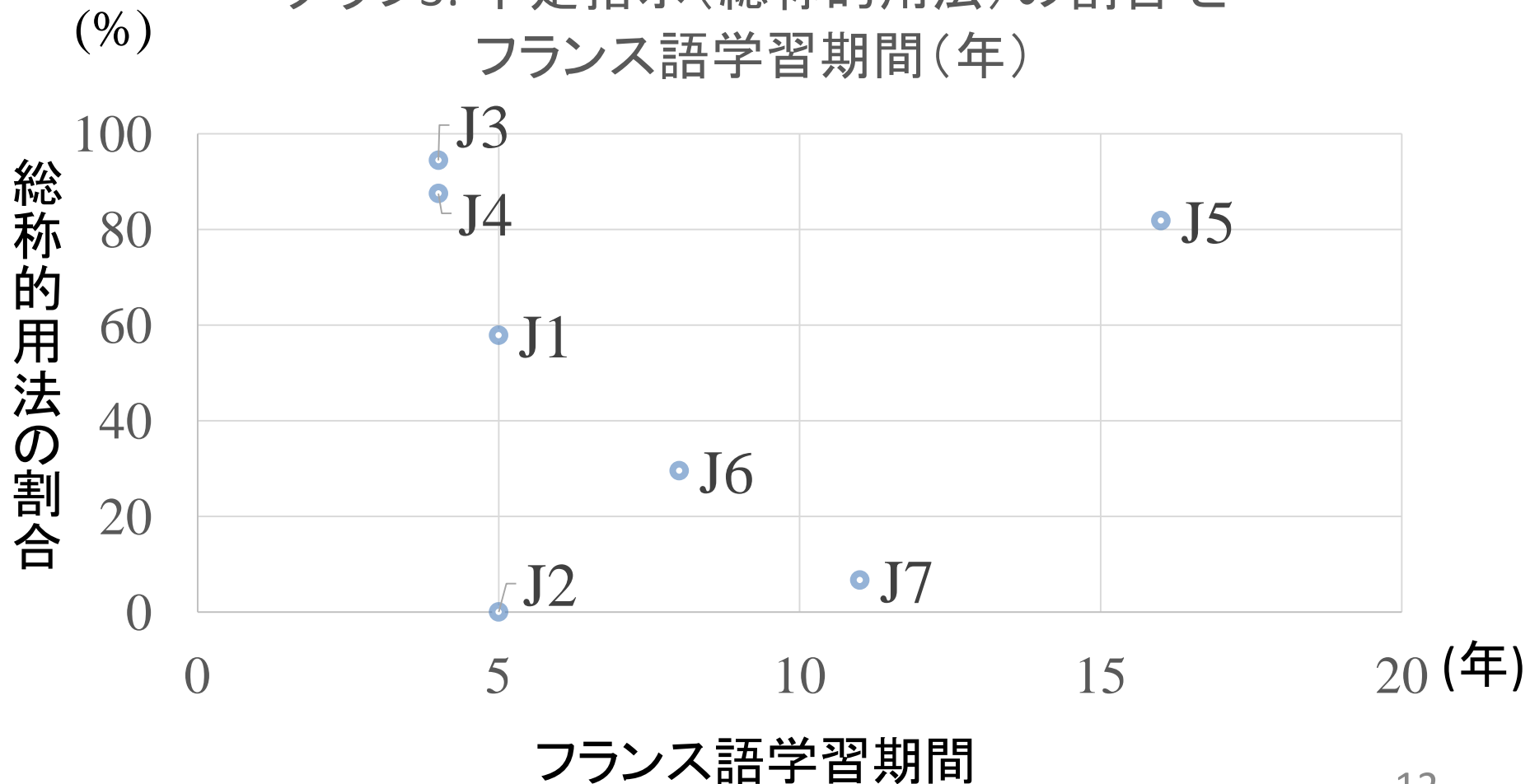
◆ グループに属していないインフォーマント

- J2 1度もonを発話しなかった

⇒使用するonの用法 と フランス語圏滞在期間
関係性があるようだった

onの用法とフランス語学習期間

グラフ3. 不定指示(総称的用法)の割合と
フランス語学習期間(年)



不定用法(総称的用法)

チャンク: comment on dit ①

何を言おうか考えているときに使用

◆ comment on dit

J3 6回

J4 2回

J6 1回

◆ *comment dit

J3 5回

同じ意味で comment dire / comment dirais-je も使用

J5 2回 / 3回

J4 1回 /

不定用法(総称的用法)

チャンク: comment on dit ②

◆ comment on disait

名称を思い出そうとしているときに使用

J6 1回

◆ comment on dit ~ en français

フランス語でどういうのか考えているときに使用

J4 1回

J5 1回

J6 1回

◆ comment on dit ~ en France

フランスでは何というのか考えているときに使用

J6 1回

不定用法(総称的用法)

チャンク: on doit

「～しなければならない」

表4. il faut que/+inf と on doitの使用回数(回)

学習者	il faut que/ +inf	on doit
J2	0	0
J3	1	4
J7	0	2
J1	0	5
J4	3	0
J5	6	0
J6	9	0

どちらか一方を発話: J1, J4, J5, J6, J7

不定用法（総称的用法）

チャンク: on doit

(4) J4 160 :

... il faut # payer au moins deux mille euh deux mille yens ...

「... 少なくとも2,000 うーむ 2,000円支払わなければなりません ...」

J3 179~J4 166 (12発言省略)

(5) J3 185 :

... mais il faut payer # au moins # (省略) mille # mille cinq cent yens ...

「... でも少なくとも (省略) 1,000... 1,500円支払わなければなりません...」

4. 結論にかえて

- ◆ 不定指示の総称的用法、定指示の2つの用法を使用
- ◆ フランス語圏滞在期間
 - 6年以上～9年未満のインフォーマント : J6, J7
 - 定指示の使用割合が高い(70%以上)。
 - 1年以内のインフォーマント :
 - J3, J4, J5は不定指示(総称的用法)の使用割合が高い(82%以上)。
 - J1は不定指示(総称的用法)(58%)と定指示(42%)
 - J2はonを発話しなかった。
- ◆ 不定指示(総称的用法)のチャンク
 - comment on dit
 - on doit

5. 今後の課題

- 定指示の用法で使われる不定代名詞onについて、誰を指示しているか詳しい分析を行う。
- 不定代名詞onと共起する動詞を調査し、用法ごとに傾向があるのかを分析する。
- 不定代名詞onの指示対象・用法に、話題や文脈との関連性があるのかを分析する。

謝辞

本研究は、科研費16H03442 基盤研究(B)「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」研究代表者 川口裕司、科研費 15H03227 基盤研究(B)「A corpus-based multi-level analysis of spoken French produced by pre-advanced Japanese learners of French」研究代表者 Detey Sylvainの助成を受けたものである。



参考文献

- BOUTET, Josiane. (1986), La référence à la personne en français parlé : le cas de "on". *Langage et société*, n° 38, pp. 19-49, Paris : Éditions de la Maison des sciences de l'homme.
- BRADLEY, Evan D. et al. (2015), Elicitation of french on vs. nous in formal and informal contexts. *Research in Language*, Łódź : The Journal of University of Lodz
- FLØTTUM, Kjersti et al. (2007), *On : pronom à facettes*, Bruxelles : De Boeck.
- DEWAELE, Jean-Marc.(2002), Using sociostylistic variants in advanced French interlanguage , The case of nous/on*, *EUROSLA Yearbook 2 (2002)*, 205–226, Amsterdam : John Benjamins Publishing Company.
- SYLVAIN, Detey. et KAWAGUCHI, Yuji. (2008), *Interphonologie du Français Contemporain (IPFC), Récolte automatisée des données et apprenants japonais*, Colloque Phonologie du Français Contemporain : variation, interfaces, cognition. MSH Paris

URL

東京外国語大学言語モジュール「フランス語文法」,

<<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr/gmod/courses/c01/lesson07/step1/explanation/031.html>>

2018年11月4日アクセス.